

8割以上ICT工事に関心

「安全に繋がるICT」強調

が査
調
協
建
馬
群
意
識

群馬県建設業協会の青柳剛会長は3日、前橋市の群馬建設会館内で会見し、ICT活用工事への会員企業の意識調査結果を発表した。経営者・技術者ともに8割以上がICT活用工事に関心があると回答。一方でICT活用工事の実績があるとの回答は11%に留まり、社外への講習会・見学会に参加しているとの回答は45%だった。青柳会長は「写真」は、ICT活用工事の拡大のためには



現在の高い関心を定着させていくことが必要だと指摘。「ICTはリスク軽減に繋がる。安全を軸に考えるべきだ」と訴えた。調査は、2月7日から14日にかけて実施。会員企業279社に配布、268社(96%)から回答を得た。調査結果によると、ICT活用工事への関心について、「関心が非常に高い」「関心がある」「やや関心がある」との回答は経営者が86%、技術者が88%に達した。その割合は、回答した会社経営者の完工高が多いほど増加する傾向にあり、30億円以上では100%、10億以上30億円未満では90%だった。

現在までの取組状況

(複数回答)については「社外のICT活用施工に関する講習会・見学会に参加」との回答が120社(45%)と最も多く、ICT活用施工の実績ありは29社(11%)、ICT建機を所有は5社(2%)、ドローンを所有は26社(10%)となった。6社(2%)と少ないながらも社内にICT活用施工を目的とした研究会

・勉強会を組織しているとの回答もあった。一方で未着手は71社で、無回答とあわせると113社(約42%)となっており、関心はありながらもICT工事の着手には課題を残している現状がうかがえる。今、ICT活用施工を条件とした発注があった場合の対応を訊ねた問いへの回答にもその傾向は見て取れる。自社の規模や通例の受注工事ではICT活用工事はなじまないと考えている(86社)を筆頭に消極的な意見が

160社、66%に上った。積極的な回答は96社、36%だった。青柳会長は「アンケートへの回答率も96%と高く、ICT活用工事への関心も高い。人材不足に対する危機感の裏返しと想っている」との認識を示したうえで、「今後とも関心を定着させるためのしかけづくりが必要。研修会や直接現場を見る機会をつくるほか、目に見える形で省力化になることが求められる」と今後を見据えた。